

北朝鮮 1946年創作『建国作業歌』

山根 俊郎

1946年5月～7月普通江改修工事

昨年(2024年)6月9日(日)午後3時半～5時に神戸学生青年センターで開かれた青丘文庫研究会<朝鮮近現代史研究会>で水野直樹さんが「1946年ピョンヤン普通江改修工事の政治的意味―「民主朝鮮のソウル」を建設せよ―」を講演されました。

この工事は、日本の植民地期に計画・開始されながら7割しか完成しなかった新水路建設工事を1946年5月から7月までの短期間に大規模な大衆動員によって完遂。

金日成の指導によるとされ、その直前に行われた農地改革などと合わせて、金日成の指導体制を確立した。とても興味深い講義であった。

講義の際に「普通江改修工事特輯 1946.7 普通江改修工事完遂慶祝準備委員会」という冊子をスライドで見せていただいた。そんな貴重な資料をよく探されたなあ!と感心した。

私は、表紙(1ページ)に続く2ページと3ページに歌の楽譜が2曲あるのが気になった。

水野さんをお願いして、翌日にメールに添付して送っていただいた。「2つの歌が掲載されていますが、誰が作詞、作曲したのかは書かれていません。一番目の歌は題名が『愛国堤防』ですから、普通江改修工事の際してつくられたものと考えられます。二番目の歌は、もう少し一般的な意味合いをもったものようです」という説明である。

『建国作業歌』

私は二番目の歌である『建国作業歌』という題名を見て、ふと思い出した。「楽譜1」参照。

『建国作業歌』は、私が1990年に復刻して出版した「人民解放歌謡集」(民青東京本部文化部版 1948年7月発行)―『カラスよ 屍を見て啼くな 朝鮮の人民解放歌謡』山根俊郎 1990年長征社―の朝鮮語の歌の中で最後まで南の歌なのか? 北の歌なのか? 分からなかった歌であった。

今回、北朝鮮の歌であることがはっきりと分か

り、とても満足した。

歌詞を比較してみると、1番の2段目の「敵の倭人の奴ら(외놈)が踏みにじった足跡」が「人民解放歌謡集」では、「敵の奴ら(그놈)が踏みにじった足跡」と軽めの扱いである。



李燦と金元均の最強コンビの誕生

実は、詩人である李燦(リチャン)は、この普通江改修工事の事を詩「流れよ 普通江 新しい歴史の真ただ中を」(흘러라 普通江 새歷史의 한복판을)を作っている。この詩では金日成を讃えず、朝鮮労働党を讃えている。「(李燦)詩集 勝利の記録」文化戦線社 1947年9月5日に収録。

よって、「表1」の通り、私は11『愛国堤防』と12『建国作業歌』は李燦が作詞したと推測する。

また、金元均(キムウォンギョン)は、1946年の前半には、5『朝鮮行進曲』や7『闘争歌』を作詞・作曲している。しかし、この11『愛国堤防』と12『建国作業歌』は作曲だけをした。

7月にコンビを組んだ二人は、8月15日に不朽の名作、最高の頌歌である『金日成将軍の歌』(李燦詞・金元均曲)を発表するのである。

以後、李燦は革命詩人と呼ばれるが、金日成が南から呼び寄せた詩人朴世永(パクセヨン)が1947年に『愛国歌』(金元均作曲)と『人民軍行進曲』(崔律成作曲)を作詞して大仕事をこなす。

1946年10月11日に改編された北朝鮮音楽同盟では経験豊かな李冕相(リミョンサン)が委員長になり、金元均はナンバー2の常任委員となった。